

少年院に全国で初めて、ボランティア団体が設置されました 「泉南学寮グリーンサポーター」

令和元年6月に、矯正施設を地域資源として捉えて、民間企業や団体、学校関係者等に地域の課題解決のためのアイデアを出していただいた、「刑務所・少年院×立ち直り・地方創生アイデアソン」が開催されました。

このアイデアソンで、選定されたアイデア「**役立ちたい**」を実現化すべく、全国に先駆けて、大阪府阪南市に所在する少年院 泉南学寮 においてモデルケースを実施しています。このたび、この泉南学寮の在院生をメンバーにしたボランティア団体が、少年院としては、全国で初めて地域の社会福祉協議会に登録されました。具体的には、市内のお困りごとについて、職員が同行の上、清掃活動や、牡蠣の選別作業等、地域に担い手が不足している分野のボランティア活動を阪南市と一緒に進めていこうとしています。

令和2年1月27日(月)には、「**役立ちたい**」実現化に向けたモデルケースとして、阪南市社会福祉協議会の協力のもと結成した、全国初となる少年院在院者による地域のボランティア団体設置に係る認定式を行いました。少年院の在院者による地域のボランティア団体設置は、全国で初めてとなります。認定式においては、阪南市長祝辞や法務省矯正局長祝辞、YAHOO!からの祝い動画を賜り、誇らしい表情をした少年の姿が印象的でした。今後は、地域と連携した同種の取組が、全国の少年院で展開される予定です。



阪南市長祝辞
(認定式)



認定書授与の場面
(認定式)

庁舎前で記念撮影



矯正施設所在自治体会議近畿部会 加古川学園・播磨学園にて開催

矯正施設所在自治体会議は、矯正施設が所在する市町村の首長が構成員となつてネットワークを形成し、地域ぐるみの再犯防止施策の推進、矯正施設の人的・物的資源を活用した地域創生策等のために、情報交換等を行う会議です。

令和元年6月に設立され、現在、矯正施設所在自治体113のうち、92の自治体が構成員となっています。

今年度、全国7ブロックごとに、各地域のテーマについて、意見交換する地域部会が開催されることとなっていたところ、近畿ブロックにおいては、1月29日(水)に、加古川学園・播磨学園において開催されました。当日は、近畿部会の議長である加古川市長をはじめ、近畿ブロックにおいて会員となっている10自治体が出席され、各自自治体からの取組紹介や矯正行政に関する意見交換等が、加古川市長進行のもと、行われました。

施設見学時には、農場や寮内で、在園生とお話していただく時間がありましたが、目を輝かせながら、嬉しそうに市長と話す少年の姿が印象的でした。自治体の方々には、少年の純粋な姿に触れていただき、矯正教育への理解を深めていただく良い機会にもなったと感じています。

加古川市長からの 開会挨拶

加古川市再犯防止推進計画等について御説明がありました。



当管区からの情報提供

令和元年12月に決定した「再犯防止推進計画加速化プラン」について情報提供しました。



各自治体からの取組発表

矯正施設と連携した取組等について御説明がありました。



自治体：10自治体14名
法務省：26名